

| 科目   |                              | 動物感染症学（総論・微生物学）  |       |      |
|--|------------------------------|--|-------|------|
| 担当講師 内布 洋一<br>実務経験有 獣医師、獣医学博士、財団法人でウイルスおよびワクチン研究に従事。50年勤務  |                              |  |       |      |
| 開講年次   |                              | 授業形態   | 選択/必修 | 授業時間 |
| 動物看護学科 2年次前期   |                              | 講義   | 必修    | 30   |
| <b>授業目標</b><br>感染、感染症、発症などの定義、感染症の成立条件、感染症の病原因子である細菌・真菌・ウイルスおよび原虫などに関する生物学的、物理化学的性状を学ぶ。更に、犬、猫等が罹患する主要な感染症とその感染経路、感染後の経過、臨床症状、診断、予防・治療方法、微生物学的検査方法、微生物材料の取り扱い方法を学ぶ。 |                              |  |       |      |
| <b>授業概要</b><br>炎症と免疫の機序とアレルギーや自己免疫性疾患についても学ぶ。  |                              |  |       |      |
| <b>成績評価の方法</b><br>評価の基準は筆記試験による。また本科目受験には出席率が3分の2以上であることが必要。試験は80～100点がA評価、70～79がB評価、60～69までをC評価とし、60点未満は再試とする。再試においては80点以上を合格とし評価はCとなる。                           |                              |  |       |      |
| <b>教材</b><br>動物看護コアテキスト3巻 動物の疾病と予防及び回復、6巻 動物看護の実践（ファームプレス）、講師資料  |                              |  |       |      |
| <b>授業計画</b> 毎週金曜日 2限目 10:50～12:20  |                              |  |       |      |
| 回  | テーマ                          | 授業内容   |       |      |
| 1  | 1.感染症と微生物                    | 感染症とは、病原体の種類およびそれらの生物学的特徴<br>近代微生物学の歩み   |       |      |
| 2  | 2.感染症の成立                     | 感染症の成立要因、各種感染症の種類とその特徴、病原体の感染力と病原因子、宿主の防御能、病原体の種類別疾患の特徴                                      |       |      |
| 3  | 3.病原微生物学<br>1) 細菌類の特徴        | 細菌類の仲間とそれらの生物学的特徴、細菌の形態、組成、構造、染色性、環境要因、増殖、培養、代謝、抵抗性  |       |      |
| 4  | 3.病原微生物学<br>2) 細菌            | 細菌の遺伝と変異、病原因子（内毒素と外毒素、菌体外酵素）、細菌の分類、主な病原細菌  |       |      |
| 5  | 3.病原微生物学<br>3) その他の細菌の仲間     | マイコプラズマ、クラミジアおよびリケッチアの生物学的性状、主な病原体の特徴、生活環、それらによる疾患の特徴  |       |      |
| 6  | 3.病原微生物学<br>4) 真菌            | 真菌の特徴、形態、組成、構造、生物学的性状、増殖、真菌の分類、主な真菌感染症とその特徴  |       |      |
| 7  | 3.病原微生物学<br>5) ウイルス          | ウイルスの形態、組成、構造、増殖、変異、ウイルス性疾患の特徴、動物ウイルスの分類、人獣病原ウイルスの種類   |       |      |
| 8  | 3.病原微生物学<br>6) 原虫<br>7) プリオン | 病原性原虫の種類とその組成、構造および形態、主な原虫の生活環の特徴、プリオン病の特徴、プリオン蛋白の蔵宿機構、人獣のプリオン病                              |       |      |
| 9  | 4.感染症各論<br>1) 日和見感染症         | 生体と常在細菌叢との関わり、腸内細菌叢との有益性、有害性、日和見感染症とその原因微生物、易感染宿主と院内感染症、薬剤耐性菌                                |       |      |
| 10   | 4.感染症各論<br>2) イヌのウイルス性疾患     | 狂犬病、イヌジステンパー、犬アデノウイルス感染症、犬パルボウイルス感染症、犬コロナウイルス感染症、犬口腔乳頭種、パラインフルエンザウイルス感染症                     |       |      |
| 11   | 4.感染症各論<br>3) ネコのウイルス性疾患     | 猫伝染性咽頭気管炎、猫カリシウイルス感染症、猫汎白血球減少症、伝染性腹膜炎と猫コロナウイルス感染症、猫白血病と猫免疫不全症                                |       |      |
| 12   | 4.感染症各論<br>4) 主要な細菌等による疾患    | レプトスピラ、パスツレラ、ブルセラ、ボルデテラ、サルモネラ、ライム病、クラミジア、オオム病、ジアルジア、バベシア、トキソプラズマ、アルペルギルス、クリプトコッカス、カンジダ、マラセチア |       |      |
| 13   | 5.感染症対策<br>1) 微生物学的取扱い法      | 感染症統御の3要因（感染源対策、感染経路対策、感受性対策）、消毒方法と滅菌方法  |       |      |
| 14   | 5.感染症対策<br>2) 予防とワクチン、治療、診断  | ワクチンの種類とその特徴（有効性と安全性、用法、取り扱い方法、抗生物質等の特性、取り扱い上の注意、感染症の診断法                                     |       |      |